

2015年 暮らしと協同の研究所 第23回 総会記念シンポジウムのご案内

◆日程 6月27日(土) 13:00~17:00 シンポジウム 17:15 第23回総会 18:15 懇親会
28日(日) 9:30~12:30 分科会

◆会場 コーフェイン京都(京都市中京区) ※会場が昨年と異なりますのでご注意ください。

◆申込締切り 6月15日(月)

超高齢社会における暮らしとまちづくりへの多様な接近 —「地域包括ケア」と生活協同組合—

(開催趣旨)

今、高齢者介護の領域では、団塊の世代が75歳以上になる「2025年問題」とそれに向けての対応としての「地域包括ケア」が喧伝されています。それは75歳以上になれば介護が必要となる高齢者の比率が格段に上昇し、介護保険の下でのサービス供給体制や保険財政、また高齢者負担などがそうした「異次元の高齢化」に対応できるかが危惧されているからです。しかし、2025年に直面するのは、単に75歳以上の高齢人口比率が高くなるだけではありません。少子化による人口減少や単身世帯化などが併進し、また認知症高齢者比率も上昇します。何らかの配慮を必要とする高齢者やその家族がこれまでにない規模に膨らんでいきます。

だが2025年にむけて対応を迫られているのは、医療や介護、福祉の世界だけなのでしょうか。超高齢社会における組合員や地域の人びとの暮らしをどう支え、どう安心して住み続けることのできる地域をつくるかは、すべての社会領域に関わる問題であります。すなわち、すべての社会的活動が超高齢社会仕様になっているかどうかが問われているのです。生協に引き付けていえば、生協のすべての事業や活動のあり方を、超高齢社会における組合員や地域の人びとの暮らしに寄り添い、長いライフコースのすべてのステージ、とりわけ配慮の必要が高まる高齢期をしっかりと支えられるように組み替えていくことが求められているのではないのでしょうか。

もちろん、人びとの暮らしや社会のあり方に大きな影響を与えているのは人口現象だけではありません。今日ではグローバル化の作用も強い影響をもたらしています。2000年以降、グローバル化への対応として雇用の弾力化が進み、非正規労働者比率が4割近くに増大しており、その結果、勤労者世帯の所得は傾向的に低下しています。したがって、生協の「2025年問題」への対応、超高齢社会仕様への変換は、人びとの経済的困難をふまえながら進めるという難しいかじ取りが求められることとなります。

とはいえ、超高齢社会は自然災害のように突然襲来するものではありません。すでに1990年代初めから高齢化は日本の社会の中で濃淡をもって進行してきており、それへの社会的対応はさまざまな形で進められてきていました。生協においてもすでにさまざまな経験が蓄積されてきています。「すでに起こった未来」(P.F.ドラッカー)として、これまでの経験を次の10年への対応の中に活かしていく必要があると思います。

そこで今年のシンポジウムでは、医療・介護・福祉分野でのキーワードである「地域包括ケア」を、超高齢社会における安心して住み続けられる地域づくりと読み替えて、購買生協での超高齢社会仕様への多様な取り組みを取り上げることにしました。多様さに込めたのは、地域における高齢化や社会条件等の差異性を生かした組織的対応や地域づくりへの関与こそ大切であると考えたからです。

各地の多様な経験を持ち寄って、意見交換しましょう。(暮らし福祉研究会代表 浜岡政好)

6月27日（土）13:00 シンポジウム 17:15 第23回総会 18:15 懇親会

13:00 開会挨拶

13:05 問題提起 浜岡政好（佛教大学名誉教授）

「超高齢社会における暮らしとまちづくりへの多様な接近

ー『地域包括ケア』と生活協同組合ー」

14:00 実践報告

I 高田忠良（生活協同組合コープこうべ第2地区活動本部長）

「住み慣れた地域で安心して暮らすために～西宮市を事例に生協の関わりを考える～」

II 向井忍（生活協同組合コープあいち参与）

「『安心してらせるまちづくり』における生協の多様な関わり

～『地域支え合いモデル事業』後に見えてきた可能性～」

III 高田公喜（広島県生活協同組合連合会専務理事）

「県内生協の協同連帯で進める福祉介護」

15:30 休憩

15:45 研究者コメント

I 川口啓子（大阪健康福祉短期大学教授）

II 上掛利博（京都府立大学教授）

16:15 パネルディスカッション

コーディネーター：浜岡政好、パネリスト：高田忠良・向井忍・高田公喜・川口啓子・上掛利博

16:50 まとめ 中川順子（元立命館大学教授） 17:00 終了

17:15 第23回総会（会員の方は後日送付の議案書をご持参ください）

18:15 懇親会（多くの皆さまのご参加お待ちしております） 19:45 中締め

6月28日（日）9:30～12:30 分科会

第1分科会 理念と事業を結ぶもの～生協アイデンティティ再考～

（趣旨）

①理念を掲げ、②理念をさまざまな活動を通して関係者が共有し、③理念を事業（事業方式、職員の働き方、組合員の暮らし方など）として実践する。こうした不断のプロセスを進化させていく「継続的なイノベーション」が、生協事業の特質であると考えられます。本分科会では、昨年シンポジウムに引き続きコープみやざきをはじめとする事例も踏まえて、継続的なイノベーションの実現条件、克服すべき課題などを明らかにしながら、改めて生協のアイデンティティについて考えてみます。

コーディネーター：北川太一（福井県立大学教授）

報告者：的場信樹（佛教大学教授）「生協事業のイノベーションーコープみやざきの40年の歴史から考える」

二場邦彦（立命館大学名誉教授）「理念の事業への具体化と競争優位性ー現状と課題を考えるー」

第2分科会 ^{おきたま}山形置賜の自給圏構想とは何か、生協の役割・可能性を考える

（趣旨）

「食と農、地域と暮らしを守る」というこの私たちのささやかな願いを実現するために、私たちはどのような実践プログラムをもつべきなのでしょう。産直、地産地消、そしてそれにつながる自給圏構想がそういうものであってほしい。荒ぶるハイパーグローバリズムに抗うものは何か。ローカリズムの、身近なところでつながっていく、そんな営みの積み重ねが生み出す力がきっとその源泉になるのでしょうか。ともに学びましょう。

コーディネーター：小池恒男（滋賀県立大学名誉教授）

報告者：井上肇（一般社団法人置賜自給圏推進機構専務理事・生活クラブやまがた生活協同組合前理事長）

第3分科会 私たちは福島から何を学ぶか～人間の幸福と生き方を問う～

(趣旨)

東日本大震災の地震・津波・原発の被害から4年、被災者のみなさんの共通する想いは「忘れてほしくない」ことだと報じられています。昨年は「ちほこくな！」(＝うそつくな)をテーマに掲げ、安倍首相のうそで誘致した東京オリンピックで消し去ろうとされるなかでの差別と分断の仕組みを明らかにしました。今年は、「帰還宣言」で揺れ動く避難者の気持ちやくらしの実態から、人間の幸福(ウェル・ビーイング)のための「生き方」が私たちに問われているのではないかとということで、福島から学び続けたいと思います。

コーディネーター：上掛利博(京都府立大学教授)、久保建夫(当研究所研究委員)

報告者：早川篤雄(福島原発避難者訴訟原告団団長)

工藤史雄(浜通り医療生協組織部主任)

コメント：安齋育郎(立命館大学名誉教授・国際平和ミュージアム名誉館長)

ご参加にあたって

◆参加費 参加費はなるべく事前にお振込みをお願いします。

この機会にご入会の場合、期中のため今年度の個人会費は5000円(15年6月～16年3月分)です。

区分	両日参加	1日参加
会員(個人・団体)	3000円	2000円
非会員	8000円	5000円
学生・院生(社会人院生除く)	2000円	1000円

◆懇親会費 5000円

◆申込方法 裏面の参加申込書に必要事項ご記入の上、FAX等でお送りください。

◆締切日 6月15日(月) 必着

◆定員 150名(定員に達し次第締め切らせていただきます)

◆宿泊斡旋 コープイン京都 8800円(シングル・朝食付)

①申し込みは先着順で承ります。部屋数に限りがありますのでお早めにお申し込みください。

②宿泊費は直接ご精算ください(参加費には含まず)。

③喫煙室ご希望の方は参加申込書にご記入ください。基本は禁煙室です。

④6/17以降のキャンセルは、規定によりキャンセル料がかかりますことをご了承ください。

会場地図・アクセス



会場＝コープイン京都

TEL 075-256-6600

京都市中京区柳馬場蛸薬師上ル
井筒屋町 411

(公共交通)

●JR「京都駅」→地下鉄烏丸線→「四条」駅、13番出口から徒歩5分。※下車後、15分は必要。

●阪急電車「烏丸」駅、13番出口から徒歩5分。

●京阪電車「三条」駅(三条通西へ、京都YMCAを左折)徒歩16分

(お車の方)

●契約駐車場「パラカ烏丸パーキング」左記地図9番(宿泊者は24時間1500円、駐車券をフロントへ)